

ともに歩む、「学び」のその先へ

Guideline

10・11
OCTOBER & NOVEMBER
2024

大学をみる視点

進むか?理系シフト

—理系進学・文理融合・文理分けを考える—



巻頭インタビュー
OECD PISA2022から
考える教育の未来

Kawaijuku Report
資質・能力でつなぐ
中学・高校・大学、そして社会

河合塾
全国進学情報センター

河合塾進学情報誌 Guideline

10・11月号

OECD PISA2022に関するインタビューに続き、
「資質・能力の育成」「理系人材育成」といった、
学校種を超えて進む教育改革に関する記事を掲載!

詳細はこちら

 Kei-Net Plus

教育関係者のための情報サイト

www.keinet.ne.jp/teacher/



✓定期購読受付中 ✓電子書籍版を無料公開

編集部のおすすめ記事



OECD PISA2022から 考える教育の未来

鈴木寛教授にインタビューを行いました。3分野の順位がトップレベルであるという結果に対しては日本の教育関係者の努力の賜物である、と称賛のコメントをいただく一方で、今後の問題点についてのご指摘いただく有用な時間となりました。

平均得点や順位だけに囚われず、今後より顕在化するであろうエージェンシーやウェルビーイングの問題についても改めて考えさせられる内容であったと感じています。

山口大輔
河合塾学校事業推進部



進むか?理系シフト

—理系進学・文理融合・文理分けを考える—

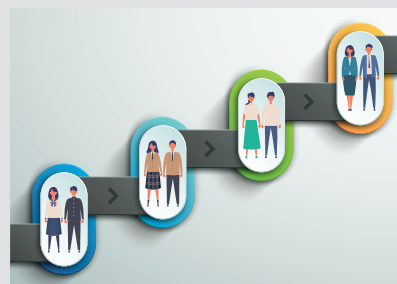
「理系5割」に向けた多様な取り組みを取材しました。

大切だと感じたのは、文系生や高卒就職者も含めて、できるだけ高学年まで数学(数字)に触れ続けることです。

ただ、そこで求められるのは高校数学や大学入試で扱われるような内容だけではないのかもしれません。

理系選択者増加とともに、高校生に必要なニューメラシー(数的能力)が問われているのだと感じました。

三浦健太郎
河合塾教育研究開発部



資質・能力でつなぐ 中学・高校・大学、 そして社会

PROGは、4年前に企業向けを、3年前に中学生向けをリリースし、中学生・高校生・大学生・社会人まで一貫したモノサシで測ること可能になりました。コンピテンシーは、これからの社会人に必要な“キャリア自律”に影響を与えます。中学・高校段階からいかにコンピテンシーを育むか。桐蔭学園中等教育学校の取材からヒントをいただきました。

片山まゆみ
河合塾教育研究開発部

写真提供: iStock